広報
もりよし

発行所 森吉町役場
編集 総務課
印刷所 米内沢 中央印刷所
発行部数 3,300部
1部 7円

新年おめでとうございます

1971

樹氷の森吉山風景

年頭の辞

町長 赤石元治

激動を予想されました一九七〇年の年も町民の皆さんと共に大過なく過させていただきまして、心から感謝申上げます。

ここに一九七一年の新春をお迎えする年頭に当りまして町発展を念願して、更に決意を新にし、努力致す所存であります。

先ず今年の重点目標と致しまして社会福祉行政の発展充実に務めたいと存じます。これを堀り下げて考えて見ますと民生の安定は社会福祉行政の充実にあるわけでありまして、国においては社会福祉国家の早期実現を目途として強力な政治活動が行われ、町においても当然民生の安定が町の象徴としてその内容充実の鉾先を向けて行かなければならないと思います。

しかしながら只単独に社会福祉事業だけを考えただけではその成果は勿論挙らないわけで、それは飽くまでも他の行政との関連に於て実現が期待出来るわけであります。

所謂産業、土木、教育、観光、文化、政治、経済、そして広域市町村行政を含めた自治体の果さなければならない使命を達成して始めて社会福祉事業のスタートラインにつく姿勢が完璧なものになり得るものと確信をするものであります。

細かく分類するときりも限りもないわけでありますがたとえば男女別年令層にしても乳幼児、幼児、小中高生、青年、壮年、老人には寝たきり老人等もあり且つ職業に致っても種々雑多であり最近においては出稼も一つの職業化され如何にして明朗にして健康な不安のない出稼にしなければならないかが検討されているわけであります。

吾が町におきましても関係部落の協力を得ながら児童館、幼稚園が建てられ既存の保育所等運営の冥を得て次代を担う幼児の育成に最善をつくさなければなりません。

只惜しむらくは乳幼児保育の施設のないのが遺憾に堪えないところでありますが是非共研究の上近々にも実現を見たいものと念願致しております。

過疎化の激しい昨今町内の人口流出が多く一〇月一日の国勢調査の結果によりまして、かろうじて一二、〇四一人の人口確保出来たにすぎません。

町としても人口流出は町の衰微につながる大きな要因をなすものでありますのであらゆる手段方法を構じましてこれが防止に努めなければなりません。

社会福祉事業の根幹をなすものはまだ数多くあるわけでありますが実行強化に邁進する覚悟で御座います

一九七一年の初頭に当りまして町民の一人一人が幸でありますと共にそしてそれが社会の発展と幸せの輪にひろまらんことを祈りまして年頭の御挨拶と致します。

年頭あいさつ

議長 北林照助

一九七〇年代は、激動の年代と言われましたが、過ぎた一年を回顧して見ますとまさしくその感を深く致します。末だかって農村が今日のような窮地に立たされた事はありません。終戦後の食糧難時代から今日まで、営々と努力し、どうにか安定しかけたと思う間もなく、断崖の前に立たされた様なものです。

七五〇万屯という大量の余剰米による減反、食管制度の危機、貿易の自由化によってゆれ動く農政や、木材を始めとする中小企業の不況、更に人口の流出による過疎化の波は地域社会の将来に大きな不安を抱かせるものであります。

こうした情勢に対し町は過疎町村の指定をうけ過疎地域振興計画を作り生活環境、教育、厚生施設、更に産業基盤の整備をはかる事にし、五年間に二十四億三千万の事業を行う事になっております。しかし農業収入が米価の据置と減反により頭打ちになった現在、畜産、酪農更に養蚕に新しい活路を見出さなければなりません。前田地域の農業近代化事業が着工され、又前田地区の畜産、浦田の養蚕米内沢県営牧場がスタートした事は森吉町の農業の一歩前進として喜ばしい限りです。又工場誘致による農外収入を増す事も大切であります。既に誘致した工場は順調な伸展を見せ町にとってなくてはならない存在になりつつありますが、今後は男の職場となる企業の誘致をはからねばなりません。しかし地元産業の育成も大事な事であります。地元人による地元産業が栄えなくて真の町発展はあり得ないのです。

今年は日本経済は戦後始めての大不況になるだろうと言われております。いつまでも都会にだけ光りがあたるものではないと思います。公害問題で騒しくなって本当の農村の良さが再認識されつつあります。前途はきびしいがそれに負けない、押しつぶされない地域社会をみんなの力でつくり上げる事を願い年頭の御挨拶と致します。

芽を出さぬうちに掘りとれ悪の種

（青少年を立派に育てる運動）

謹賀新年

森吉町議会

議長 北林照助
副議長 春日一嘉
議員 佐藤米吉
加賀勝雄
木村長治郎
金仁一郎
金兵一郎
播磨忠金
鈴木雄一
佐々木武雄
山本末吉
神成長
佐藤新太郎
石川作治
板垣清
奥田安太郎
蛭田直蔵
佐藤富郎
桜井正七
高島昭二
奥田信明
事務局長 赤石終吉
監査委員 金逸郎
佐藤新太郎

森吉町役場

町長 赤石元治
助役 佐藤正一郎
収入役 清水常松
総務課長 九島三郎
税務課長 柴田栄蔵
民生課長 久住与助
産業課長 菅原道雄
建設課長 助役（兼任）
前田支所長 宮野栄直
ほか職員一同

森吉町教育委員会

委員長 木村泰二郎
委員 白沢喜和治
〃 佐林幸吉
〃 奥山忠隆
教育長 三浦富三郎
総務課長 土佐伸一

森吉町公民館

館長 三浦富三郎
米内沢公民館長 鈴木勝治
前田公民館長 庄司喬吉

森吉町農業委員会

会長 奥田信吾
事務局長 金豊助

森吉町消防団

団長 庄司兵蔵
副団長 柴田直松

森吉町選挙管理委員会

委員長 川口伊一郎

森吉町米内沢土地改良区

理事長 北林照助

森吉町前田土地改良区

理事長 春日多助
事務局長 庄司順一郎

森吉山観光開発株式会社

会長 小畑勇二郎
社長 赤石元治
事務局長 佐藤徳松

十二月現在の森吉町の住民登録人口は　一二、六三九人　世帯数　二、八一五世帯

森吉町定例会終了

一般会計補正額　六億四千五十二万七千円（累計）

四十四年度決算一般会計　七百六十四万一千円繰越黒字

森吉町十二月定例議会は去る十四日より開催し十九議案が審議され原案どおり可決された。

主な議案は次のとおり四十四年度決算の認定　一般会計補正予算、災害危険住宅移転に関する条例の一部改正、人事院勧告による職員のベースアップにともなう条例改正など、十九議案を原案通り可決して閉会した。

昭和四十四年度決算は一般会計歳入が四億五千二百六十三万九千円―歳出＝四億四千四百九十九万七千円で繰越黒字額は七百六十四万一千円。なお特別会計では別表のとおりであるが主な事業の国保会計の決算五百四十五万六千円の黒字でうち二百万円を積み立てて基金に繰り入れる。

昭和四十五年度一般会計の補正は六千九百五十九万円で累計では六億四千五十二万七千円

五味堀橋上部工事＝八百六十三万五千円　大岱橋＝七百四十五万三千円が工事繰り延べで減額されたがベースアップにともなう職員の給与＝一千三百万円　第二次農業構造事業の基盤整備近代化施設補助金＝六千百三十八万円などが追加補正の主な内容である。

なお昭和四十四年度会計別決算内容は次回に掲載いたします。

町議による一般質問要旨は次のとおり

○議員石川作治＝①国道一○五号線の改良②奥産道路工事四十六年の見通し③冬期除雪計画④前田駅前に天然記念物カモシカ像の建立⑤前田地区農集電話開通等にわたって。

○議員高島昭二＝過疎地域と失業保険問題にわたって。

○議員佐藤米吉＝①中学校統合②内陸工業団地③町有敷地④交通指導隊等にわたって。

○議員山本末吉＝①産米調整②町道改良等にわたって。

○議員板垣清＝①非常備消防と広域消防体制等にわたって。

○議員神成長＝①産米調整と農業施策②湯ノ岱小存続の見透③保険衛生指導等にわたって。

○議員佐藤富郎＝①産米調整問題の解決②畜産③林業④観光等にわたって。

保育所の入所申込みについて

（入所申し込みはお早めにお願いします）

保育所では例年どおり、昭和四十六年度の入所幼児を募集しています。

ご希望の方は、役場、前田支所窓口、米内沢、前田保育所にそれぞれ申請用紙を備い付けてありますので申し込みしてください。

〆切は二月二十日です。

（入所については児童福祉法による基準により決定されますので、御了承ください。）

浦田保育所への入所希望の方は三月十四日まで、浦田保育所に申し込みしてください。

なお、年令は満三才以上で、小学校前の幼児であります。

葉たばこ収納日程決る

◆……昭和四十五年産阿仁地区葉たばこ……◆
◆……収納が米内沢収納所において行な……◆
◆……われます。……◆
◆……収納日程は次のとおり……◆

月日	改良団名
△一月七日	長畑　吉田
△一月十七日	上小阿仁
△一月十八日	合川　日栄
△一月十九日	日栄　浦田
△一月二十日	本城　五味堀　前田　長下
△一月二十一日	根小屋
△一月二十二日	根小屋　松栄　向本城　米畑　仲新田
△一月二十三日	桂瀬　白坂　大淵　鶴田　長野
△一月二十五日	鶴田
△一月二十六日	鶴田

なお本町の葉たばこ耕作者は一六一戸、耕作面積は三、九一八aとなっています。

昭和45年度葉たばこ価格

	優等	1等	2等	3等	4等	5等
中葉	770円	650円	500円	390円	310円	200円
本葉	770円	650円	500円	350円	230円	100円

狩猟（猟銃）による人身事故をなくそう

十一月一日より二月十五日まで狩猟解禁期にはいりました。

県内では毎年狩猟中の事故が発生していますので次の事項をよく守り明るい狩猟をしよう。

1法令や銃の取扱についての知識を身につけておく。

2銃とタマは別々にしてカギのかかるところに保管する。

3銃の手入れは弾倉にタマのないことを確めてから行い人を近づけない。

4銃口を人に向けたり、他人に銃をさわらせないようにする。

5発射するときは落ち着いて獲物であることを確かめてから発射する。

6使い残しの火薬など危険なものはよく始末しておくこと。

46年度新入学児童

男一一七名　女一一七名

森吉町教育委員会で、46年度新入学児童の健康診断を実施しました。新しく一年生に入学する学校別の生徒数は次のとおりです。

学校別	男	女	計	前年度増減
米内沢小	52	63	115	15
浦田小	6	8	14	3
前田小	43	36	79	△8
森吉小	12	5	17	△2
桐内分校	1	1	2	△4
小滝分校	2	3	5	2
湯ノ岱小	1	1	2	0
合計	117	117	234	6

昭和46年森吉町消防団出初式

消防団「出初式」挙行

森吉町消防団では一月五日米内沢公民館に各分団が午前十時三〇分集合米中ブラバンを先頭に行進開始、米内沢農協前に特設した観閲台上の町長より観閲をうけ町内を防火啓蒙を兼ねて行進し、午前十一時三〇分より森吉町体育館において「出初式」を挙行した。

当日表彰を受けた団員は次のとおり

有功賞
第一分団長池田　豊治

二十五年勤続者
第一分団部長　近藤　正七
第二分団副分団長金　理一
〃　部長　九嶋　一雄
〃　班長　武石喜一郎
〃　団員　金　正吉
〃　〃　九島　精一
〃　〃　九島由之助
〃　〃　金　作二郎
第四分団分団長春日　多助
第六分団団員　織田　定雄

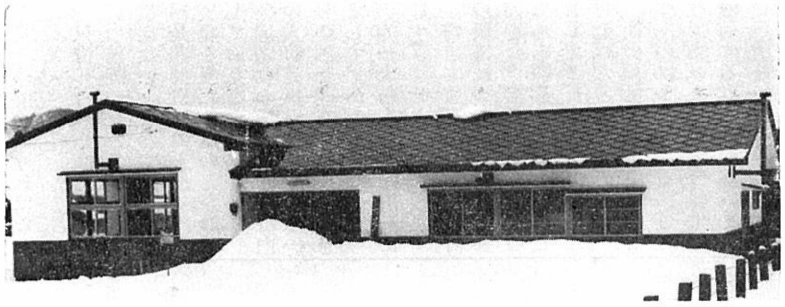
二十年勤続者
第一分団班長　赤石清之助　外九名

十五年勤続者表彰
第二分団々員　九島　一二　外五名

十年勤続者
第二分団々員　鈴木長四郎　外五名

七年勤続者
第一分団々員　木村喜久治　外三名

なお式典終了後公民館において定年退職者団員及び来賓等を招き慰労宴と併せて祝宴を催し「本年度無火災」を誓いあって閉会した。



新屋布児童館完成

新屋布児童館の建設が奥山建設の手によって急ピッチで進められていたが去る十一月二十日に完成された。

木造平家建面積二〇五平方米となっており総工費は三、四三二千円で内部は六室遊戯室、図書室等で十一月二十八日竣工式を施行し四月から幼児四〇名を収容する見込です。

（完成された新屋布児童館）

※「お知らせ」※

教育委員会では、冬期室内競技として、卓球の練習日を左記の通り設けております。一般社会人（特に初心者、婦人）を対象としておりますので気軽においで下さい。

記

日時　一月六日～二十四日（水、金、日）
午后六時三十分～八時三十分
場所　前田公民館及び町民体育館

タバコはいつでも町内から買いましょう

慶弔だより（十二月）

出生　おめでとうございます

九嶋典子	（佐太郎　長女）	向本城
近藤広次	（整市　二男）	横町
柴田洋子	（勝美　長女）	本城
浅村友里	（慶信　三女）	川向
森川薫	（富男　二男）	新屋布

婚姻　このよろこびをいつまでも

（庄司一男	新町	野村スジエ）	神成
（田村美喜雄	十和田町	網干あや子）	横町
（松本正博	広島県	大川道子）	湯ノ岱
（吉田静男	惣瀬	上野静子）	東京都
（九島慶悦	鷹巣町	藤島恵子）	細越
（石本幸勲	北海道	鈴木幸子）	桂瀬
（羽場吉雄	桐内	佐藤アヤ子）	鷹巣町
（畠山勝男	鷹巣町	斎藤ツナ子）	砕淵
（柴田兼治	冷水	疋田トシ）	合川町
（佐藤幸夫	神成	岡田加津江）	岐阜市
（小松正美	鷹巣町	森川鏡子）	新屋布
（加藤憲之介	東京都	松浦貞子）	新屋布
（津谷米蔵	鷹巣町	北林幸子）	駅前
（九島喜春	松栄	大川ムチ子）	鷹巣町
（新林儀三郎	小滝	涌坪あえ子）	桐内
（石川萬左好	鷲ノ瀬	石野巻廣子）	下川原
（中村武士	千葉市	岸野よね子）	五味堀
（中原宏人	下川原	石岡悦子）	山本郡
（工藤優子	大岱	大保親治）	鹿児島県
（庄司美鶴	桂坂	松本早苗）	佐賀県
（福坂文敏	滋賀県	吉田幸子）	神成
（庄司繁	深渡	増田則子）	東京都
（天野賢司	愛知県	関口ひで子）	神成

死亡　おくやみ申し上げます

細田己之松	76	（松太郎　父）	大杉
金　徳蔵	92	（兵一郎　父）	本城
九島二郎	21	（ミエ　二男）	鶴田
大川ナツ	69	（嘉右衛門　母）	湯ノ岱
佐藤ヤエ	66	（重蔵　母）	様田
岸野ヤシ	82	（七蔵　養母）	五味堀
庄司彦七	57	（富士男　父）	通町
土佐セツ子	23	（鶴治　二女）	堺田
庄司キヨ	53	（竹松　妻）	桂坂